

答 辞

厳しい冬の寒さが終わりを告げ、冷たい風の中にも暖かな春のぬくもりが感じられるようになったこの佳き日に、私たち四期生のためにこのような素晴らしい卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。また、お忙しい中、式にご参列くださいました御来賓の皆様、校長先生はじめ諸先生方、並びに関係者の皆様に卒業生一同心から御礼申し上げます。

今日、私たち四期生は清修を卒業します。こうして今日を迎えると、みんなと笑い、ふざけ合ったあの白い校舎から思い出が溢れ出てくるようです。みんなと過ごした教室、廊下、ラウンジ、アトリウム、そのすべてに思い出が詰まっています。

六年前の四月、まるで晴れやかな未来を祝福するかのように、桜の花が舞い散る中で、私たちはこの清修に入学しました。まだ、小学生のあどけなさを残しながら、新しく始まる中学生活に不安を抱く一方で、六年間をともにする新たな友だちや先生、そして学園の生活への期待に胸をふくらませていたことを覚えていきます。日を追うごとに教室内はにぎやかになり、中学生生活を平和に楽しんでいた私たちですが、あまりの宿題の量の多さに逃げ出してしまったのは私だけではないはずです。その宿題や催促しにくる先生のカツカツと響くヒールの音から逃げ回った日々が、今では懐かしく感じられます。

清修で印象深い思い出は、やはり、二度にわたる海外研修です。中学二年で行った三週間の英国研修では、日本とは全く異なった価値観をもつ人や多種多様な文化に触れることで、生まれ育った国を相対化して客観視することができ、改めて日本の良さに気付かされました。その一つが、差し入れていただいた梅干しおにぎりです。あのおいしさや感動は今でも忘れることができません。今でこそ私たち四期生は仲がいいと言われていますが、英国研修中は人間関係に亀裂が入ることもしばしばありました。しかしそれを乗り越えたからこそ、今の、どのようなことでもみんなで笑い合える、お互いをわかり合い、認め合うことのできる絆が生まれたのだと思います。四期生では、折しも百周年を迎えたユングフラウ鉄道に乗り、無事四期生全員でユングフラウヨッホの頂に立つことができました。高山病の恐れがあるため、叫ぶなど言われていたにもかかわらず、感動のあまり興奮しすぎて騒音ともとれる歓声をあげましたね。そのような四期生とこの記念すべき時に一緒に登れたことは、私にとって一生の思い出です。そして何より親元を離れたこの二つの研修を通して、私たち四期生全員が支えてくれる両親の存在の大きさを痛感したに違いありません。

行事ごとが大好きで、一つのことをみんなでも楽しみながら取り組むのが私たち四期生です。それは、先生の誕生日も例外ではなく、サプライズのバスデイパーティーを開いて先生を泣かせることもありました。スポーツフェアでは、どの学年よりも張り切って練習をし、声を張り上げて応援をしていました。清修フェスタでは、毎年毎年外が真っ暗になるまで学校に残って、その時にできる最高のものを作ろうとみんなで力を合わせていました。どうすればより良くなるかみんなが話し合い、時に意見をぶつけ合いながら作り上げたものは、来校者の方々をも私たち四期生の愉快であり、やしい世界に巻き込んでしまったものでした。ただ、表面的には賑やかでおちゃらけてはいても、一切妥協のないものだったと自負しています。

迎えた最後の一年は、辛いことの多い一年でした。勉強や、自分の弱さに嫌気がさし、すべてを投げ出したくなる時もありました。それでも先生方や家族、そして仲間からの励ましでどうにか自分を奮い立たせ、乗り越えることができました。

私たちがこのように濃密で素晴らしい六年間を送ることができたのは、ひとえに周囲の方々の支えがあったからこそです。

いつも温かく私たちを見守り、導いてくださった先生方。質問すれば私たちが納得するまで辛抱強く教えてくれ、自分でもよくわからなかった進路について親身になって相談に乗ってくれました。そして最後まで私たちのことを、私たち以上に信じてくれました。エプロンを着ずに掃除に行き、先生に口酸っぱく注意されることもありました。リボンを忘れて先生に追いかければ、羽交い絞めにされることもありました。質問ではなく雑談をするために先生にくっついて回ることもありました。そんな怒られたがりで甘えん坊な私たちに愛想を尽かすことなく、時に厳しく時に優しく指導してくれた先生方のおかげで、私たちは無事清修を卒業することができそうです。先生のネームタグを取り合い、ふざけ合っていたあの光景は忘れません。本当に、ありがとうございました。

次に、この清修で語りきれない思い出を誰よりも共有してきた四期生のみんな。私はこんなにも素敵な仲間に出会えて、共に過ごすことができて、本当に幸せです。仲がいいと言われてきた私たちでしたが、それが崩れそうになるほど大きな困難に直面することもありました。解決のために何度も何度も話し合いを重ね、時には涙を流し、感情をさらけ出すこともありました。それでも私たちは相手を思い遣ることをやめませんでした。誰かが問題を起こしても、その子一人を責めるのではなく、四期生の仲間として立ち直り、さらに絆を深められるように、学年全体で考え、解決しようと努力しました。それはきっと誰にでもできることではなく、私たち四期生だからこそできたこと。私は四期生の仲の良さは、お互いを思い遣る心から生まれているのだと思います。受験の時には、変にピリピリせずにもと変わらない明るく楽しいみんなに、どんなに救われたことでしょうか。私はそんなみんなと同じ四期生であれたことを、誇りに思います。みんなと一緒にいることがただ、ただ楽しかった。みんなと笑い合い、泣き合った日々が、私の大切な宝物です。かけがえのない最高の仲間たち、六年間、本当にありがとうございました。みんなが大好きです。

そしてずっと私たちを支え続けてくれた、お父さん、お母さん。イライラしてつい反抗的な態度をとって、八つ当たりしてしまう日もありました。ごめんなさい。受験の時期には私以上に体調管理に気を遣ってくれたり、勉強に疲れサボり気味だった私のことを、あと少しだから、と引つ張り上げてくれたりしました。希望の大学に合格した時には涙を流して喜んでくれ、諦めずに頑張った甲斐があったと思いました。お父さん、お母さん、今日まで育ててくれて、ずっと支えてくれて、本当にありがとうございます。これからもまだまだ迷惑をかけてしまうけれど、少しずつ恩返しをしていきます。

最後に、在校生の皆さん。私たちは先輩として、皆さんに何か残せたでしょうか。もしかすると、私たちが学ばされることの方が多かったかもしれませんが。清修フェスタやスポーツフェアでは、五期生をはじめとする皆さんが本当に頼りになり、助けられた場面がいくつもありました。そんな皆さんなら、まだまだ発展途上の清修をより良くしていくことができると信じています。今までの清修にとらわれることなく、より素晴らしい清修をその手で創り上げていってください。

今日、私たちは旅立ちの時を迎えました。それぞれが進むその道は違えど、母校は同じ、この清修です。今、世界は想像もつかない速さで変化しています。今まで常識とされていたことが、通用しなくなっていく、そんな世界です。しかし、そのような世界の中でこそ、過去の常識にとらわれず新たな常識を創造するフロンティア精神を持った清修生は活躍できるのだと確信しています。この先、どのような困難が立ちかはかろうとも、降り積もる雪に耐えながら凜と咲く白梅のごとく困難に耐え、培ったフロンティア精神のもと、新しい世界で活躍していくことをここに、誓います。

最後となりましたが、ここまで支えてきてくださった先生方、友人、家族、在校生の皆さんに改めて感謝するとともに、清修の益々の御発展を卒業生一同心よりお祈り申し上げ、答辞の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成二十七年 三月八日

白梅学園高等学校清修中高一貫部

第四期生総代 阿部 真由子